



# わんにゃブルな健康最前線



わんちゃん、ねこちゃんの健康について、獣医さんから専門的にお話しいたします!



京都中央動物病院  
院長 獣医師  
むらた ひろし  
村田 裕史 先生

## ペットのための夏の健康サポート

### 「わんちゃんとねこちゃんの夏に多い病気～熱中症にご用心」

夏は人間だけでなく、わんちゃんとねこちゃんにとっても大変な季節です。わんちゃんとねこちゃんは全身を毛に覆われていることにより熱の放散が妨げられます。また、鼻先など一部しか汗をかくことができませぬ。本来、汗は蒸発するときに熱を奪ってくれるのですが、この“発汗”がわんちゃんとねこちゃんはできないのです。この2つの事実だけでも夏の暑さが危険であることが理解していただけるのではないでしょうが。

暑さに関係している代表的な疾患としては、「熱中症」があります。この熱中症はわんちゃんとねこちゃんのどちらがより多いのでしょうか。先ほど述べたように、どちらも被毛に覆われており、全身で汗をかくこともできません。しかし、熱中症にかかりやすいのは圧倒的にわんちゃんです。ねこちゃんは体が小さいので体表面積の割合が大きいことや、肺や気道の解剖学的な差が影

響しているとされております。そんな熱中症ですが、注意することで発症率を下げる事が可能です。まず基本的なことですが、暑い飼育環境はやめましよう。また散歩時間を工夫します。日中の散歩はさけて夜や朝などの時間に散歩をしていただくことが大切です。夕方の時間帯は太陽の光は和らいでいても地面のアスファルトなどはかなり熱を持っていることがあります。わんちゃんは人間よりも地面の近くを歩き、人間のように靴を履きません。裸足でまだ熱をもったアスファルトの上を歩くことは、暑さに弱いわんちゃんにとって過酷な状況です。夏のお散歩は、時間とコースを工夫してあげてください。そして、お散歩中にもこまめな水分補給を心がけてあげてくださいね。

熱中症の他にも、病気を持っているわんちゃんは要注意です。病院では特に、僧帽弁閉鎖不全症などの心疾患、気管虚脱などの

〈お問い合わせ〉  
京都中央動物病院

電話・FAX

075-821-1020

京都市下京区柿本町582-3  
9:00~20:00





呼吸器疾患を多く診察します。このような病気を持つわんちゃんは、6月〜9月ぐらいの暑い時期には注意が必要でしょう。さらに外耳炎や皮膚炎も多く発症します。これはシャンプーや耳洗浄の頻度を増やすと効果的です。皮膚の変化に注意していただき、赤みや脱毛、痒みがあれば病院に連れて行ってあげてください。

室内飼育のねこちゃんやわんちゃんのように、あまり直接的な熱中症を発症することは少ないことは先ほど書

きました。しかし、油断は禁物です。ねこちゃんやわんちゃんと比較して、慢性腎臓病や尿石症などの泌尿器疾患を多く発症します。このような疾患は「脱水」が病態を悪化させます。脱水状態にならないよう、水分を多くとらせることを心がけましょう。給水容器を複数設置したり、循環するタイプの給水容器を使うなどしてみてください。ドライフードから缶詰に変更するのも効果的です。

わんちゃん、ねこちゃんも暑さが本格的になる前に、一度病院での検査や相談を実施することでこれらのリスクを軽減することができま

す。ぜひ、かかりつけの病院でご相談してみてください。  
以上のように色々な心配な夏の季節ですが、先述の点を含めた環境や生活リズムなどを整えて、ぜひ楽しく健康的な夏をわんちゃんとねこちゃんとお過ごしください。

## 活動報告 10年に渡り、「盲導犬育成支援」を実施しています



街頭募金にはいつもPR犬がお手伝いに来てくれます♪

視覚障がいがある方にとって、大切なパートナーである盲導犬。全国に盲導犬を必要とされている人は、約3,000人。対して、盲導犬は、約1,000頭という現状にあります。

その原因には、育成にかかる資金不足や、盲導犬に対する社会の認知・理解不足が挙げられます。

そこで、わかさ生活は盲導犬育成のために、関西盲導犬協会(2003年1月〜)、日本盲導犬協会(2014年2月〜)へ寄付を継続して行っています。また、認知・

理解促進のために、2004年3月、盲導犬を題材にした映画「クイール」に協賛いたしました。

2015年からは盲導犬の誕生からパートナーとの生活の様子を描いたマンガ『盲導犬ベリー』を発行・販売しています。さらに従業員が募金活動を行い、盲導犬についての理解を深める活動に取り組んでいます。

